4 JAPAN REGION

Volume 25
July 2007

Vol. 25 No.4. July 2007

目　　次

Table of Contents

日本リージョン会長挨拶 ……The President's Message 1

第25期日本リージョン年次大会特集 …… Commemorative Feature for the 25th Japan RegionConference 2

大会テーマ・基調演説 ……Conference Theme & Keynote Address 2

年 次 報 告 ……Annual Report 4

役員就任式 ……Inauguration 5

スピーチコンテスト ……Speech Contest 6

講演・高樹のぶ子氏……Lecture 7

教育セッション……Educational Sessions 8

晩　餐　会 ……Banquet & Entertainment 9

エクスカーション……Excursion 10

コーディネーター謝辞……Gratitude from the Coordinator 11

一年を振りかえって ……Reflections on the Past Year 12

日本リージョン役員 ……Japan Region Officers 12

カウンスル会長……Council Presidents 15

カウンスル編集者 ……Council Editors 19

補正予算書 ……Budget & Finance 23

儀典に親しむ ……Protocol 24

編集後記……Message from the Editor 裏背表紙

ITC宣誓及び声明文 ……ITC Pledge・Mission Statement of Japan Region 裏表紙

第25期日本リージョン会長挨拶

共に考え、共に進もう

第25期 ITC日本リージョン会長　**石 本 美知子**

いよいよ今期最後の会報となりました。第４号はリージョン大会特集です。

５月28日、29日、30日と３日間に亘って開催されました第25回日本リージョン年次大会を振り返るとき、私は万感胸迫る思いがしております。

大会開催地を九州に決めてからの約一年間、役員の方たち、プログラム、スピーチコンテスト委員会のメンバーたち、そしてカウンスルNo.4の準備委員会の皆様方など本当に大勢の方々とあれこれ大会に向けての準備を進めてまいりました。

大会準備のプロセスも私にとっては喜びであり大きな収穫であったと思っていますが、大会中に参加者の皆様方がとても楽しく参加して私を盛り上げてくださっているのがひしひしと感じられ、大会終了の時に皆さんがスタンディングオーベーションで称えてくださった瞬間は、私の理想とする「日本リージョンが一つになった」とさえ感じました。

これは私の独りよがりだったのかもしれませんが、私にとっては生涯忘れることのない素晴らしい日となりました。

今私は、ITCは素晴らしい、ITCの会員で良かったという喜びを噛みしめております。

ご協力いただいた皆様方、本当に有難うございました。

第25期 日本リージョン会長基調演説

大会テーマ「楽しむ」「Enjoy!」

本日は第25回ITC日本リージョン年次大会をこの九州の地で大勢の皆様をお迎えして開催出来ますことを大変嬉しく存じます。
それに加えて日本リージョンが待ち望んでおりましたテリーバクスターITC国際会長にご出席頂きました事は会員一同にとってこの上ない喜びでございます。

さて、今期私は「**共に考え、共に進もう**」のテーマを掲げ、常にその心を持ちながらリージョンの運営に当たってまいりました。
即ち、リージョン役員会はいつも会員皆様の身近にあり、ITCはどうあるべきかを共に考え、そして共に進みながらお互いが成長して行く、 これが私の切なる願いです。

しかし、今振り返ってみると、私は果たして最初の目標を何処まで達成することが出来たでしょうか？
私なりに全力投球はしてきましたが、87クラブのメンバーお一人お一人にリージョンを身近に感じて頂くというのは如何に難しいことであるかということを実感しているのが現状です。
コミュニケーションの原点であるまっすぐ相手に向き合って自分の胸を開く、「胸襟を開く」と言う言葉もありますように、私自身は皆さんと向き合って接することを常に心がけてきました。
リージョン会報や毎月お送りする役員会便りに掲載する会長のメッセージも、私はお一人お一人に語りかけているつもりで発信してきました。
リージョンから発信するさまざまな情報は、会員の皆さんにはしっかりと受止めて頂いていると思いますが、それぞれのクラブではどんな活動をされているのか？どのような悩みを抱えているのか？というようなクラブの声がリージョンには殆ど聞こえてきません。
どうすればその声が聞こえるのか？一方通行のリージョンにならないようにするにはと、いろいろ試行錯誤する毎日です。

大　会　特　集

さて、今期の初めに役員会は長期の目標、短期の目標を定め、その目標に向かって活動してきました。その中でも、**クラブレベルの充実**　私はこれが一番大切なことだと思い、特に力を入れたいと思ったことでした。
各クラブが充実すれば、活気が出てクラブライフは楽しいものとなり、会員も定着します。
会員が毎月の例会に出席し、今日はほんとに有益だった、来てよかったという充実感を味わって帰途に着く、これが一番大切なことだと思います。
それには何が必要でしょうか？
私は良いプログラム・良い教育の提供だと考えます。
そのため、今期リージョンプログラム委員会ではカウンスル・クラブのお奨めプログラムを募り、皆さんに公開して推薦致しました。
　この大会でもその中の一つを教育セッションのワークショップに取り上げております。
ただ、ITC におけるプログラムの現状は既にかなりレベルアップしていて、この一年私が参加したいくつかのカウンスル、クラブの例会でのプログラムはそれぞれが個性的で素晴らしいものばかりでした。
これぞ目指しているプログラムの質の向上であり、メンバーの皆さんが工夫して良いプログラムを提供して下さっていることを確信して嬉しく思いました。
総てのクラブでも私の参加したクラブのように質の高いプログラムを展開することが出来れば、日本リージョンのクラブレベルは更に向上したと言えるでしょう。

　さて、私は今期の大会テーマを**楽しむ**と致しました。
ITC での教育は会員がそれを**楽しく**学ぶということが一番大事なことだと思います。楽しく学ぶことによって初めてその学んだことが身につくからです。
教育を提供する側が、難しいことでもそれを判りやすく、そして楽しいものとして提供しますと、教育を受けたほうにはすっと無理なく入ってきます。
そして、教育を受ける側もそれを**楽しんで**受け入れることが大切ですね。
知ることを**楽しむ**、見ることを**楽しむ**、聞くことを**楽しむ**、この大会では皆様に楽しんでいただける、さまざまの教育・プログラムを用意しております。
どうか皆さん！これから展開されるプログラムを見て、聞いて、知っておおいに楽しんでください。
そしてこの大会に参加した皆さんが ITC の素晴らしさを再確認し、一段と成長されることを希望いたします。Let's Enjoy!

第 25 期　ITC 日本リージョン年次報告

2006～2007年

第25期日本リージョン書記　**立花　眞琴**

第 25 期日本リージョン役員会は、日本リージョン声明文「ITC 日本リージョンの使命は、ITC の目的とするコミュニケーション技術、組織運営の技術を習得する機会を会員に提供してリーダーシップをそなえた社会人を養成し社会に貢献することにある。」を継承し、会則・常規及び役員会方針に基づき、石本美知子会長のテーマ「共に考え、共に進もう」を実践するために次の活動を行った。

長期目標

◎　組織運営研究･･･組織の再考

◎　会員の支援と増強

短期目標

□マスターマニュアルの活用

□クラブレベルの充実

＊プログラム・教育の開発

＊伝達方法の徹底

□ PREM の方向性

1．クラブ数・会員状況

日本リージョンは、今期 8 カウンスル、87 クラブ（内、無所属クラブ 1）
会員数 1,570 名（内、重複会員 46 名）でスタートした。
5 月 28 日現在、クラブ数 87（内、無所属クラブ 1）
会員数 1,605 名（内、重複会員 46 名）である。

2．目標に対する活動

長期目標

□　組織運営研究・・・組織の再考

昨年度、会則修正案が委員会付託になったことにより、組織運営研究委員会に「組織の再考」「PREM 委員会の具体的方法」「指導の内容」の検討を付託した。

□　会員の支援と増強

「継続会員の維持」と「新会員の獲得」双方を目標とし、「一例会一ゲスト」活動をクラブに 奨励した。その結果、多数の新会員が得られた。

短期目標

□　マスターマニュアルの活用

新マスターマニュアルは全ての会員が有効に活用できるように、監修の出来上がったものから順次配布している。

□　クラブレベルの充実

クラブ及びカウンスルのプログラム・教育の開発と援助に力を注ぎ、お奨めプログラムを募集して、公開プログラムとし、年次大会の教育セッションにも採用した。

3．その他の活動

1）役員会は定足数のもと、現在まで12回（臨時役員会１回を含む）を開催した。
また必要に応じてE-メールで通信役員会を行った。

2）８カウンスルへは、2006年10月から11月にかけて、役員と任命役員が公式訪問をした。

3）リージョン会報は、年４回発行予定で、これまでに３回発行し、全会員に配布した。

4）「日本リージョン役員会便り」は、会長指示のもと、事務局の協力を受け、翻訳されたFtBと共にE-メール送信により各クラブCLOに配信すると同時にリージョンウェブサイトに掲載している。常に会員にリージョンへの理解を深めるよう努力した。

5）ひがし広島クラブを増設した。

4．研修会報告

1）カウンスル会長会議を３回開催し、カウンスル会長間の交流及び各カウンスルの活動状況把握を行った。

2）初めての試みとして「リージョン役員とカウンスル役員の集い」を2006年12月６日に京都タワーホテルで行った。スピーチコンテスト委員会がこれに参加した。

3）CMTは、2007年５月28日JALリゾートシーホークホテル福岡において12部門を開催した。

4）TPP（Training Power Pack）2007は、公式訪問者　テリー　バクスター国際会長によって５月28日に行われた。

5）大会の評価は５月30日、大会終了後、公式訪問者によりリージョン役員を対象として行われ、続いてRMT（Region Management Training）が、新役員を対象に行われる予定である。

第25回年次大会は2007年５月28日、29日、30日の３日間、JALリゾートシーホークホテル福岡において大会テーマ：「楽しむ」「Enjoy!」のもと開催中であります。

終わりに、第25期役員会は、石本美知子会長のもと、会員の皆様の声を大切にし、いつもみんなのリージョンであるという気持ちを忘れないよう、任務を遂行した事をご報告いたします。

以　上

第26期 ITC 日本リージョン役員就任

テーマ

“刷新と再生”

公式訪問者
インストーリングオフィサー
国際会長
テリー　バクスター

新会長
加藤　啓子

会　　長	加藤啓子	カウンスルNo.2 甲南クラブ	次期会長	大野三恵子	カウンスルNo.6 京都クラブ
第一副会長	今井京子	カウンスルNo.2 イースト神戸クラブ	第二副会長	黒住祥重	カウンスルNo.4 岡山クラブ
書　　記	稲葉由利子	カウンスルNo.1 名城クラブ	会　　計	遠藤美与子	カウンスルNo.5 堺東クラブ

スピーチコンテスト

ITC 日本リージョンスピーチコンテスト委員長　**児玉　明美**

クラブ、カウンスルより選出された16名（英語の部８名　日本語の部８名）のスピーカーの皆様が、良き聴衆の元で、甲乙つけがたい力量を十分に発揮されました。感動や心の栄養に満たされた素晴らしいスピーチコンテストになりました。お役の方々、手順よいリードのお二人のＰＬ、そして会員の皆様のご協力にスピーチコンテスト委員会一同、心からお礼申し上げます。

入賞おめでとうございます

「英 語 の 部」　2007年５月29日　13：00～15：10

第１位　**Nana Oya**（No.8　Tokyo Central）

第２位　**Kyoko Hagiwara**（No.4　Okayama）

第３位　**Nozomi Sugiyama**（Matsuyama）

英語の部 第１位

「日本語の部」　2007年５月30日　13：00～15：30

第１位　**城　戸　幸　子**（No.8　東　葛）

第２位　**平　尾　静　代**（No.7　とっとり砂丘）

第３位　**伊　藤　容　子**（No.1　東　山）

日本語の部 第１位

ブリスベンにて開催予定の ITC 世界大会にご出場おめでとうございます。
日本リージョンからエールを送りましょう！

International Speech Contest　**Nozomi Sugiyama**（Matsuyama）

Cosmopolitan Speech Contest　**Keiko Fujiki**（East Kobe）

「髙樹のぶ子と浸るアジア」を聴いて

梅田クラブ　**堺　広子**

ノンフィクションは好きでよく読みますが、小説は最近ほとんど読まなくなってしまいました。そういうわけで髙樹のぶ子さんもお名前は存じていましたが、ご本を読んだことはありませんでした。それが今回、リージョン大会で髙樹のぶ子さんのお話が聴ける、ということで予備知識が必要と思い、急きょ、短編をいくつか読みました。きれいな透き通るような感じの鋭い表現をされる方だな、と私なりのイメージを膨らませて講演に臨みました。

講演はベトナムの女流作家の恋愛小説「天国の風」を読み、彼女をベトナムに訪問した髙樹さんのスライドを見、そのベトナムとの交流で生まれた小説「ジャスミンホテル」の朗読を聴く、というものでした。朗読時の、青空に雲が流れるだけのバックスクリーン、ストーリー展開に沿って民族音楽、バイクのエンジン音、扇風機のまわる音、ワグナーの曲などが聞こえてきて、知らず知らずのうちに小説の世界に引き込まれてしまいました。前半のスライドの説明でベトナムの戦後の社会状況を少し理解した後でのこの演出で、「ジャスミンホテル」にすっと入っていけた感じです。「天国の風」も読んでみたい気になりました。

「天国の風」と「ジャスミンホテル」。両者を貫いているのは「風」だそうです。その地に立ってみなければ分からないベトナムの風と日本の風。この二つの小説はどう呼応しているのでしょうか？興味がわいてきます。

アジア10カ国をめぐるプロジェクト SIA 。髙樹さんがアジア各国の作品を読み、訪問し、どんな小説を書いていかれるか、今後の展開が楽しみです。

教育セッションに参加して

A「タロ・ジロ、オーロラ」

徳山クラブ　**杉村　千織**

日本リージョン年次大会に初めて参加する私は、期待に胸を膨らませて、北村泰一先生の教育セッションを受講しました。

北村先生は、事故による後遺症を気にしておられましたが、たくさんの体験談を私たちに伝えようと、たいへん情熱的にお話し下さり感激しました。

数々の難局を乗り越え第一次南極越冬隊として成功したこと、仲間である犬たちを南極に残さなければいけなくなった訳、再度訪れたその地での感動的なタロ・ジロとの再開、神秘的なオーロラなどの自然現象、どのお話しも興味深く引き付けられるものばかりでした。

また、特別にオーロラに出会えるポイントを 2011 年頃グリーンランド周辺北極から帰る飛行機の左側の窓の外だとお茶目に教えて下さいました。

『青春とは人生のある時期をいうのではなく、心の持ち方をいうのである』とサミュエル・ウルマンの詩を紹介し、2009 年完成予定の新観測船に乗り込み、また南極へ行きたいと語られた先生のお話を拝聴し、私も、まだまだ青春、情熱を持っていろいろなことにチャレンジしなくては･･･と決意して部屋を後にいたしました。

B「文章作法」

筑波クラブ　**松岡　美保**

「下書きのつもりで、桜、蛍、福岡のどれかひとつで 200 字くらいの文章を書いてみましょう。時間は 5 分もあれば…」高橋講師の言葉で会場に緊張が走り、私たちは完全に魅了されてしまいました。

文章を書くときに一番大事なことは下書きをすること。
テーマを決めたら最後まで書き終えること。
One sentence は大体30字が読み易く理解しやすい。
手垢の付いたありきたりの文は書いてはいけない。自分の言葉で書くこと。
手垢の付いた文とは新聞記事によくある表現。
書き終わったら冷静な目で推敲を重ねること。
経験して言葉を育て、文章を育て、心を育てる、つまり、人間を育てることである。
よく見、考えることに心がけて文章を書く。
文章を書くことによって、より濃密な毎日を送ることが出来、結果として、良い人生を送ることが出来る、と締めくくられました。

私は、編集者は感性の豊かさと感受性の鋭さと品性を併せ持たねばならないのだ、と一人頷きながら聞いていました。

書きあがったら家族や友達に読んでもらって遠慮の無い善意の批評をしてもらう、等等。

中里恒子さんのエピソードも大変心に残りました。Ｂを選択して良かったと思います。

C「人形師　中村信喬の世界」

愛媛クラブ　**原口　英子**

優しい豊かな表情の美人物博多人形が、どのような感性でもって製作されるのか、出会いを楽しみに会場入りしました。

いきなり大宰府天満宮に奉納された大きな御神牛がビデオに写し出され、その後1000年を経ている硬い大楠木の原木に、一刀一刀鑿でみぞを掘り、御神牛を製作する先生の姿が続きました。

額から汗がほとばしり、季節も移り行くけれどただひたすら作業を進め、この作品が何を人々に与えられるか、心で作ってゆくといわれます。

人形を作る心構えは、人のためになる、美しくて、いいものを作ろうとすること。

しかしそれは自分の目で見て作るのではない。目に見えない力が物を生み出す。自分の手で作るのではないといわれました。

心で作らないと人を惹きつけられないといわれる。

心で作られた作品は全てが自然に動く。その作品には縁があり、それは求めなくて向こうからやってくる。

何もないところからものづくりは始まる、ないからこそ人に夢を与え、希望を与えるものが作れる。グローバルな中でそれをずっと思い続けていると結ばれ、柔らかな笑顔で優しく会場を見渡されました。

目に見えるものしか見えてない自分の中に、優しい豊かな心が湧いてきました。

ありがとうございました。

晩餐会

福岡クラブ　**富松香余子**

迎え入れられた広い会場に華やいだ雰囲気が漂う中、石本美知子会長の開会挨拶で、「第25回ITC 日本リージョン年次大会」の晩餐会は幕を開けました。麻生渡福岡県知事、吉田宏福岡市長、公式訪問者 Terrie Baxter 国際会長より御祝辞を賜りました。Terrie 国際会長が、ITC で学ぶ意義や必要性、また、それを地域や職場で生かす重要性について話された事が印象に残っております。そして、Margaret Sutherland 国際役員副会長の乾杯の音頭「九州は、よかとこばい！」の掛け声に、出席者 500 余名から盛んな拍手が送られ、会場の雰囲気がより一層和んだ事は言うまでもありません。

目の前のテーブルには、玄海産ヒラメや長崎産的鯛、熊本県八代の塩トマト、福岡県八女茶のムース・・・等々が手際良く出され、九州産の選りすぐりの食材を存分に堪能致しました。

エンターテイメントは、全国テレビ朝日系列「旅の香り」のテーマ曲を担当された男性ユニット「ＢＩＧ　ＢＥＬＬ」。オリジナルや懐かしい曲を織り交ぜながらの演奏会。二台のグランドピアノが奏でるメロディーと、お二人の甘く美しい歌声は、私達の心を癒し、潤いを与え、会場を優しく包み込んでくれました。三時間余りの晩餐会を通して、再会を喜び親睦を深める会員の姿がそこにありました。此処、福岡の地で新しく結ばれた縁が、大木が枝を伸ばすように、世界中に拡がっていくのではないかと、私は感じました。

エクスカーション「唐津と焼き物の里伊万里を訪れて」に参加して

阪神クラブ　**井上久美子**

「もう一度来よう」こう思ったのは私だけ？　もっと見たかった、買いたかった。陶器祭りはどんなだろう。

“遠足”は夕刻に出発。道中、ホッとしたのかガイドさんの声も夢の中。宿に着くと、大会を終えた解放感に華やぎが加わった。眼前の海の広がりに歓声が上がったのだ。宴のハイライトは威勢のいい唐津くんちの曳山囃子。お囃子に負けじと、淑女のお喋りも満開だった。

翌朝、メインイベントの焼き物見学に出発だ。見送りの中に、昨夜の司会者の姿。「また来て下さいね～」振る手が、そう言っているようだった。

最初に訪れた大川内山は、鍋島藩の御用窯があったところ。陶工たちは技術漏洩を防ぐため、外出もままならぬ窮屈な生活だったという。絵付けの工房では、筆先から生まれる線に目が引き寄せられ、思わず息を凝らしていた。

その後、有田ポーセリンパークへ。ドイツの宮殿を模した建物内に、ウィーン万博に出展された大花瓶などがある。最後の目的地は、歴史に触れる九州陶磁文化館だ。製作の手間を見ただけに、作家ものや豪華な輸出伊万里に一層の迫力を感じた。時間不足を痛感したのが、柴田コレクションだ。展示室にずらりと染付千点。柔らかい藍、きりっとした藍、どれもじっくり見たいものばかり。同コレクションは質、量ともに素晴しく、展示されているのはほんの一部だ。今回は予行演習、また来よう。駆け足でバスに戻った。

仲間と非日常を共有した“大人の遠足”、こんな旅もいいものだ。

写真：井上久美子

年次大会を終えて、今

大会コーディネーター　**江藤　玲子**（大分クラブ）
コ・コーディネーター　**加藤　正枝**（岡山あくら）

第25回 ITC 日本リージョン年次大会は、640名を越すお客様と会員の皆様をお迎えして、国際都市福岡で無事に終えることができました。

この福岡の大会の、一つの思い出が甦った時、思わず笑顔になっていただければ、大会準備委員会のメンバーの歓びとするところです。

「美味しかった！」と好評をいただいたお食事は、「JALリゾートシーホークホテル福岡」が拘っておられる「地産地消」で福岡近郊の旬の食材を用いたものでした。

また、晩餐会のエンターテイメント、「BIG BELL」鈴木貴雄さん、西原大介さんの歌声は、グランドピアノ２台にのって会場の皆様の心と身体に沁み込み、大変好評をいただきました。

大会準備委員会のメンバーは、ホテル見学会、準備委員会など打合せ会を持つ度に戸惑いながらも、意識と認識が深まって参りました。特に直前の２ヶ月は、Eメールの発信、着信数が日々更新を続け、緊張の毎日を過ごしました。

このような気の抜けない日夜でしたが、石本美知子リージョン会長から届きました大会テーマ「楽しむ」「Enjoy!」に励まされ、大会を迎えることができました。

ITC ならではの、かけがいのない素敵な出会いがあり、大会が終了した今、大きな宝物を手にした喜びを胸いっぱいに感じております。心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

第4回大会準備委員会：2007年6月28日
出席者集合写真

打ち上げ懇親会　乾杯の風景
乾杯音頭：石黒慶子カウンスル No.4 会長

第1副会長を終えるにあたって

日本リージョン第1副会長　**岡崎　祥子**

今期私は、リージョン役員の一人としてまたプログラム・教育委員長として役員会、委員会活動に携わらせて頂きました。

日本リージョンという大きな組織を運営する上で、私は知らないことが多いことに気がつきました。例えば先人の賢明なお考えのもとに設立された日本リージョン基金、マスターマニュアルなどの成り立ちや現在までの経緯など殆ど知りませんでした。そのようなとき、周りから慎重にそして謙虚に意見をお求めになる石本会長のお姿に接し、本当に学ぶことの多い一年でした。また役員会では、楽しく、笑い声と共に協議事項が進み、次回が待ち遠しいようでした。

一方、私の任務の一つでありますプログラム・教育委員会の活動は、短期目標の一つである「プログラム・教育の開発」を目指し、お奨めプログラムを公開プログラムと致しました。提供されたプログラムがクラブ、カウンスルで少しでもお役に立ちましたならば嬉しく思います。そして大会の終わりに「優れたプログラム」を考案し応募されたクラブやカウンスルを表彰できましたことは、私たち委員会の大きな喜びであり、今後一層日本リージョン内の教育プログラムが充実しますよう願ってやみません。

また大会のプログラム構成は、「変化を求めること」、「会員の発表の場を設けること」、「時代を考えるタイムリーなプログラムを組むこと」、「専門性の高い教育プログラムを提供すること」などを念頭において作りました。これらのプログラムが会長のテーマ「楽しむ」と合致し、会員の皆様に喜んで頂けましたならば委員会冥利に尽きるものと思います。

大会冊子の作成に当たっては、検討に検討を重ねました。この一冊があれば、出席した会員も欠席者にも大会の様子がよく分かり、また初めての試みとして付録に貼付した「参考資料」は、より深く知っていただければと工夫しました。このように委員会メンバーの智慧と努力の結集によって出来上がりました冊子を「あなたの一冊」としてお持ち下されば、幸いです。

今期の一致団結した委員会の協力体制は私にとりましてこの上なく心強く、本当にありがたいことでした。

最後になりましたが、石本会長にはプログラム委員会の活動をお見守り頂き、自由闊達に活動を展開させて頂きましたことに感謝申し上げます。

日本リージョンの皆様、一年間のご協力ありがとうございました。

ひとつの思いとしての『クラブ留学』

日本リージョン第2副会長・会員委員長　**沢田　　郁**

「クラブ会員数は、12名以上30名以下とする」という会則規定が以前ITCにありました。

ITC世界情勢の変化に伴い、会員数の下限上限が共に次々と削除され、人数制限のまったくない現在に至りましが、教育訓練の機関であるITCにとり、あらゆる角度から考えぬかれた理想の会員数の規定であったとの声が、近年、多方面から聞こえています。

この数年、日本リージョンにおいても少ない会員数のクラブが数多く見受けられるようになり、この規定に対する熱い想いが会員の皆様の心の中に彷彿として蘇ってくるためでしょうか、少人数クラ

ブの統合の話題も、同時にあちこちから聞こえてくるようになりました。

少人数クラブの解消は、現在の日本リージョンの対峙すべき最重要課題ではないだろうか、との思いを抱いていた中で会員委員長の任務を与えられた今期（第25期）、クラブの活動状況に直接触れ、数多くの会員の皆様の意見を直接伺い、その中でクラブ統合の問題なども含めて、少人数クラブ解消に向けての解決策を模索してみたいと考え、活動の第一歩を踏み出しました。

余りにも素晴らしいプログラムを、たった一クラブで、それも10名にはるかに満たない会員数で行う勿体なさに胸の詰まったクラブ、全会員が一丸となりITCの理念を遵守し、押し寄せる苦難にひたむきに立ち向かう姿に胸を打たれたクラブ、等々、訪れたクラブの数と同じ数の感動がありました。

各カウンスル会員委員長からの報告には、クラブ会員の紹介による会員増強が、一番適切な確実なベストの方法であることが一致した見解として述べられていました。

会員増強を切望している少人数クラブにとり、このベストの方法でさえも実を結ばない苦悩に心が痛んで仕方がありませんでしたが、クラブを訪れたゲストにとっては、僅かな人数ゆえの窮屈な思いがまず大きく心を占めてしまい、入会には結びついてゆかない厳しい実情も確かに見えてきました。

クラブ統合という提案の発端は、これらのクラブへの暖かい援助の手であることとは推察しつつ、又充分理解しつつも、もし今、統合が行われたとするならば、其々のクラブの持つ個性のこの素晴らしさは、それによって大きく膨らむのでは決してなく、むしろ消滅していってしまうのではないだろうか、との大きな危惧の念が、何としても心の中から払拭しきれずに今日に至っています。

もし、今後、少人数解消の為にクラブの統合を考えるのならば、まずそれに移行する前のテストケースとして『クラブ留学』を導入してみることも意義のあることではないかと考えています。

クラブごとの単位で、半年、一年と期限を限って他のクラブに全員が『留学』し、共に活動を行ってみた結果、双方の意見が合致した場合に初めて両クラブの統合が行われることになれば、心安らかに統合への準備が進めてゆかれる思いがしています。もしそれで意見の合わない場合には、留学期間終了と共に元のクラブに戻れば良いことであり、再度他のクラブへの留学も可能にしてゆく道を開いてゆけば、テストケースとしてのクラブ留学は、日本リージョンに新たな活気を与える一助となるものなのではないかと考えています。

少人数クラブ解消の為の有効な解決策を導き出すには余りにも短い一年という年月を振り返りつつ、今後はITCの一会員として、これからも考え続けてゆきたいと思っています。

1年を振りかえって

日本リージョン書記　**立花　眞琴**

書記の任務を行うにあたって簡潔でありながら、議題が議論されたその背景が伝わり、どんな雰囲気のもとで結論に至ったか読み取れる内容の議事録を書くよう努力しようとしました。第2の産業革命に匹敵するとも言えるパソコンの普及のおかげで、議事録作成は、ひと昔前に比べて数段楽に出来るようになっています。また、いつでも、何処にいてもメールを使って交信できるようになったので、リージョン書記の仕事は以前よりかなり簡素化されているのではないかと思っています。それでも、この1年、かなりの時間パソコンの前に座って努力、奮闘していました。

ヘミングウェイは「氷山の動きが持つ威厳は水面に出ている八分の一によるものだ」と言いました。磨きこんだ文を書くためには、何度も草稿を見直し、凝縮しなければならないと痛感しています。

役員会の議事録作成は書記の仕事の中で重要な仕事の一つですが、検討される課題が多く、それらを簡潔に纏めると云っても、なかなか困難です。
なかでも、書記の年次報告はその年度の役員会の活動の集約なので、内容には、とにかく責任を感じました。

大会の議事録作成は、１日目のＣＭＴに始まり、クロージングソートで終わるまでの３日間、量の面ではとても多いのですが、審議以外は行われたプログラムの通り結果を書く事なので、考えるというよりは、事実をありのままに書くことでした。

忙しく、でも、とても楽しかったリージョン書記の役が終わりに近づいて、メールの数が少なくなってくると一抹の寂しさを覚えます。

リージョン書記を通じて沢山の、優秀で、魅力ある方々と出会いました。その方々と親しくさせていただけた事が何より私の宝物です。

1年を振りかえって

日本リージョン会計　**近本　節子**

日本リージョン第25期テーマ「共に考え　共に進もう」のリージョン役員の一人に選出して頂き、数々の事を学ばせて頂き感謝を申し上げます。
「会計は大変ね」「大変でしょ」とよく言われましたが、実際に関わってみるとそんなに負担も無く、大変とも思いませんでした。前期、「国際事務手続き」の研修をして頂いた成果でしょうか、会計のトラブルも無く、入会・退会届もスムースに送って来て下さり、会員委員会委員長と密に連絡を取り合い、常に会員数の確認も出来ました。一方、財政が豊かでなく、充分な予算も取れず自己負担が多かったのではないかと案じております。
石本日本リージョン会長をはじめ、役員の皆様のご指導を得て、ITC 暦の浅い私でも楽しく、良い経験をさせて頂きました。

「何をしなくても一年、何かに挑戦して大車輪に過ごしても一年、時の長さは同じでも得るものは大きく違ってくると思います。
ITC は『学びの場』であり『修練の場』でもあります。今より更に向上しようとするとき、その努力は喜びに変わります。
ITC はそんな喜びが一杯詰まった、魔法の袋かも知れません。もう一人の自分との出会いを求めて袋の紐を少しずつ開いて行こうと思います。」

この一年間で身にしみたことは、皆様の ITC に対する熱意とご協力と石本会長の ITC に対する“無償の愛”の大きさでした。
このような勉強の機会を与えてくださった皆様に感謝申し上げます。

カウンスルNo.1

会長　石川　浩子

カウンスル運営で工夫した事、良かった事、困った事

良かった事

☆　クラブとの通信をＥメール、ＦＡＸ、郵送と、クラブの希望に柔軟に対応した。

☆　クラブ会長と連絡を出来る限り密にとり、より良いコミュニケーションに務めた。

☆　今期リージョン大会が遠隔地で、交通費補助を工面する為、編集者からの申し出で、手作りのカラーコピー印刷のニューズレターを、従来のカウンスル会計からの補助金無しに、会報代金内の予算で発行した。

☆　役員会、常任委員会そして各クラブの熱心な協力のお蔭で、年間目標３項目を全てクリア出来た。

困った事

☆　ITC の伝達手段がメール中心となって、以前にも増して事務処理が煩雑で忙しくなり、事務の簡素化が逆行していると痛感しました。メール通信はペーパーレスにならない事も実感しました。

カウンスル会合のおすすめプログラム

今期プログラムのテーマはコミュニケーションの原点となる言葉を大切にし、美しい日本語の習得に努めるために、先ず「大人のための国語の授業」と題した講演を聞き、改めて言葉の大切さや日本語が素晴らしい言語であることを学びました。この講演をもとに言葉について学ぶプログラム作りを実践し、第３回会合で具体的に美しい日本語を身につける訓練をしました。一貫して今期テーマに添ったプログラムを行い、会員の更なる向上に寄与しました。

カウンスルNo.2

会長　横山　末子

優しく、心豊かに、心に届く言葉を！

今期カウンスル No.2 テーマ“響きあう、言葉磨きを！”を掲げ、国の内外に欠如している、コミュニケーションの架け橋となる“言葉”の重要性に迫りました。気持ちのいいコミュニケーションを図るには、美しい言葉で、優しく、心豊かに伝え、説得することが大切であること。人の心に届く言葉は、いつの時代も変わる事無く、共感と創造の力となって、心地よい心のマッサージとなり、お互いの心を通わせることになります。それによって気持ちのいい人間関係が築かれ、このエネルギーの結集が、協力という形となって、組織の繁栄と活性化へと、そしてコミュニケーションへと、大きく繋がるものと信じます。

期首に掲げました３つの方針　１．魅力あるプログラムの充実　２．優しく、こころ豊かなコミュニケーションを目指す　３．会員の増強と継続会員の保持に努める。

お陰様でカウンスル NO.2 の会員の皆様方のご協力とご支援により、ほぼ達成できましたものと、役員一同感謝いたしております。

役員会は常に結束力堅く、協調性を重んじ、和やかに、そしてユーモアーに溢れ進めて参りました。カウンスル会合活性化の為に、役員が一丸となって、前向きに情熱を持って、担って行く姿勢に、会員の皆様は、毎会合温かく対応してくださいました。お陰を持ちまして、勇気と自信を頂戴し、伸びやかにカウンスル活動を進めて参りました。

第１回会合におけるプログラムは、全員参加を目指し、日本語の美しい言葉の原点に迫り万葉人と

平成人の言葉の融合をねらいました。講師の素晴らしいコミュニケーション能力の誘導によって、日頃ITCで鍛えられた聞き手の底力が、爆発的な勢いで会場に漲り、今期テーマが見事に実践されました。

第2回会合スピーチコンテストでは、ブライトアイデアの試み、第3回会合では、言葉の集大成“言葉と音楽の融合”へと迫ります。

物事の全てにおいて、究極は“愉しむ”ことにありますが、会員の皆様と至福のひとときを共有できましたことは、会長冥利に尽きる幸せと感謝一杯でございます。

カウンスルNo.3

会長　**吉江　育子**

今期は、Spread Our Wings to The Future!! をテーマとし、未来に向かってはばたき、さらなる飛躍を願ってスタートいたしました。

今期の目標に会員の増員、少人数クラブのサポート、そしてクラブの枠を超えた会員同士の交流をあげ、実現に向けて活動いたしました。前期はPREM（増設・会員・広報委員会）より2名の委員が全クラブを訪問して、他クラブの会員と交流を深め、サポートの要請を受けたクラブでは、クラブ例会のお手伝いをいたしました。後期は役員が全クラブを訪問。PREMのクラブサポートも引き続き行いました。

要請があったクラブで総評、タイマーなどのお役をさせていただきましたが、少人数クラブの会員の負担を軽減し、またクラブ運営の活性化に多少なりと貢献できました。また、担当した会員も他クラブ訪問により、大変良い訓練の場を得ることが出来て、相互に成果があったと思います。

PREM主催の「日本文化に親しむ」をテーマとした懇親会を1月30日に湊川神社で開催し、ITCの訓練の成果がおおいに発揮され、意義深い会となりました。

困った点としては、通信手段としてEメールを中心としておりましたが、送信済みとなっていても、相手には受信されていないこともあり、パソコンに全信頼を置く事の怖さを実感いたしました。

お奨めプログラムは、NHK大阪放送局アナウンサー佐藤誠氏による講演とワークショップ「笑いのテクニック」です。笑いを交えたスピーチを学び、ITCの目的とするコミュニケーション技術の向上におおいに役立つ内容でした。

佐藤氏が最後に述べられた「左に技術、右に内容、そして両手をつなぐ人間性」との教えは、会場全員の心に響きました。

長いようで短い1年間でしたが、会長の役職に就き、得がたい多くの経験をさせていただきました。また、いろいろな出会いがあり、皆様と触れ合うことが出来ました事は、大きな喜びです。ITCの組織の素晴らしさを再認識した1年でした。

カウンスルNo.4

会長　**石黒　慶子**

カウンスル運営で工夫したこと

会長がカウンスルCLOとなり、それぞれのクラブのCLOにメール配信をしました。また、「CLOも役立つグループのくくり方」など、パソコンの活用術と題して、サニーサイド（会報誌）1号～3号に連載にするなど、CLOが定着するよう工夫しました。

岡山から九州までの広範囲のカウンスルNo.4です。年3回の会合への参加者合計が、延べ467人に

も達したことは今期最高に良かったことです。困ったことは、ITが使えない人もいるということに目を向ければ、どれだけ簡潔に少ない数のメールを配信できるかで、プリントアウトする枚数が変わります。このことは、役員会の悩みでもあり、今後の課題でもあります。

カウンスル会合のおすすめプログラム

No.4のおすすめは、リージョン大会にも採用されました、皆様おなじみの「めちゃくちゃロバート」に尽きると思います。同時に、プログラム委員会の労をねぎらい、感謝したいと思います。

カウンスルNo.5

会長　**茶谷　滋子**

カウンスル運営で工夫した事

「良かったこと」

カウンスルNo.5は稲次前会長の考案でコーディネーティング委員会を置き、今期もそのままこの委員会を引き継がせて戴きました。それは委員長を基に3回例会のホストクラブ委員長がコーディネーター委員になって頂きます。それは他のホストクラブの事で委員同志がとても勉強になり、一年間引き継ぎをしなくてもそのまま委員会の中で廻っているのでホストクラブは勿論、私共役員も遣り易く事が運びました。

そして特に今期、段コーディネーティング委員長のアイディアで「アサイン」（認識を新たにする）という表を作って下さいましたので人の動きに無駄が無くスムーズに事が運ぶ事が出来ました。これはカウンスルNo.5の一番の利点と思っております。

「カウンスル会合おすすめプログラム」

会員全員がプログラムに参加すると言う委員会のアイディアで、ワークショップ「作ってみようキャッチフレーズ」と題して第1回例会で行いました。

先ず講師に電通(株) ＣＭプランナー池田定博様を迎えＣＭの作り方をお話し頂き、その後「ラジオＣＭにチャレンジ」と題してテーブル毎に1テーブルをグループに「飲酒運転防止」「食育」「クレジットカード」「ダイエット」「アンチエージング」のテーマで製作時間を40分として、30秒でプレゼンテーションを行って頂きました。会員にはＣＭ製作については予告なしのテーマにも拘わらず会員の創意と工夫で、ＣＭクリエーターも顔負けの演技と爆笑に終始致しました。

カウンスルNo.5として、会員皆様の能力を引き出し、オリジナルなワークショプが出来、お互いの成果を確認し、そして皆様がとても楽しんで参加されたのが何より良かったと思いました。

カウンスルNo.6

会長　**髙木　清子**

会長就任に当たり、①現実を見据えてメンバーのニーズに応えること、②共に学ぶ中でこそ得られる自己の成長を目指したいこと、③カウンスルはクラブのためにあること、の3点を今期の目標に掲げました。①については、カウンスル会合の簡素化とビジネスの合理化を考え、第2回会合で派遣員対象のビジネスを試みました。②については、全員参加のプログラムを組むことで、お互いの刺激が得られ触発されるという観点に立ってのプログラム作りを

しました。③については、会合をクラブ間の交流の場とするため、座席を籤引きで決めて他クラブのメンバーとの会話を楽しめるようにしました。クラブも健闘し、7名の新入会員を迎えることが出来ました。第1回会合では11クラブから代表1名が出場して各クラブの抱える問題点を話し合いました。結果として、会員減少によって起こる問題点を共通認識として捉えることが出来たと考えます。特別委員会「クラブ運営を考える会」を立ち上げたことは一つの実りではありましたが、それが本格的に機能する前に1クラブが廃クラブとなったことは残念でした。来期に期待しています。

カウンスルNo.7

会長　**住田実寧子**

変化し飛翔するITCの中にあって、カウンスル運営の有り方を再構築する時期と考え、会合を2回とし、スピーチコンテスト、講演会、ビジネス会合、パワートークITCのワークショップをそれぞれ独立して開催し、会員が選択して出席できるよう工夫をした。又、会報誌の印刷は年1回とし、号外を3回メール便にて発信した。2回の会合以外は全て公共の施設を使用したため、会場費が安く、会費は無料とすることが出来た。講演会は、一般公開とし、テレビ、ラジオ、新聞、ちらしで広報の結果、沢山の一般参加者があり、好評を得ると共にITCの認知に役立った。しかし、講演会や、会員増強のプレゼンテーションにも関わらず、会員の増加に結びつかなかったことは、残念であった。

おすすめプログラムは、「解析　クラブ例会のビジネス」「人を活かすコミュニケーション　中澤美依先生」「言葉の力　文の力　高橋一清氏」

今期、色々な角度からコミュニケーションや、ビジネスについて考える機会を提供した。これ等をうまく活用して、今後のクラブ運営に、魅力あるプログラム作りに役立てて欲しいと心から願っている。

カウンスルNo.8

会長　**田久保節子**

カウンスル会長としてのこの1年は、試行錯誤の連続でしたが、いろいろなことを体験し学ばせていただいた、まことに感慨深い日々でした。

その間、特に次の5点に心を砕きながら、カウンスルの運営に携わりました。①カウンスルにとって何が一番大切か、クラブはカウンスルに何を望んでいるのかを常に念頭に置く。②役員会の風通しをよくし、情報の共有に努め、率直に意見を交換し合う。③個々のクラブ状況を理解し、柔軟に対応する。必要なら、躊躇なく電話も利用する。④CLOの任務はできるだけ迅速、かつ細やかな対応をモットーに務める。⑤簡素化3年目のカウンスル体制をより整えるよう努める。

至らぬ会長で、すべてが順調に推移したわけではありませんが、役員や会員の方々の絶大な協力のお陰で、多くのことを成し得て、感謝の気持ちで一杯です。

プログラムについては、第1回の会合での北原保雄先生のクイズ形式の質問を交えての講演『「問題な日本語」と「日本語の問題」』は、改善の余地は有りますが、有意義であったと思います。「美しく豊かな日本語を身につけるには、テレビばかり見ていてはだめで、読書を通して書き言葉に親しみ、疑問に思った時には必ず辞書で確認する習慣を身に着けることが何より大切」との貴重なアドバイスもいただきました。

カウンスルNo.1

編集者　加藤　玲子

発行回数
- 3回

かならず掲載するもの
- 会長の言葉、会合（研修会）の報告、役員からのインフォメーション、ITC宣誓、会合プログラム、クラブ別会員数

今期の編集方針
- 印刷まで全て手作りとすることで経費を削減しカラー化する。
- できるだけたくさんのクラブのプログラム紹介を掲載する。
- 会合のプログラムを掲載する。

編集をして楽しかったこと、苦労したこと、喜ばれた記事
- カラーにして読みやすいと言われたが、費用の面、編集部員の負担を考えると今後については問題点も多い。
- 編集の仕事はチームワーク良く楽しく行うことができた。
- ウェブサイトとニューズレターのあり方については、検討する場と時間が必要だと思う。（費用の面からすぐに「ニューズレター→ウェブサイト」と考えるのではなく、費用がかからないニューズレターのあり方・発行方法を工夫したり、ニューズレター、ウェブサイトそれぞれのあり方を考えて役目を振り分けたり等々、いろいろ考えられる方法があると思うので）

ニュースレターは必要か
- 第2号で行ったアンケートで、いくつかのクラブから「中長期的には、ニューズレターをホームページだけで掲載していくというのが時代の流れであり簡素化にもなる」その場合には「PCが出来ない人の為にはCLOが情報を提供する」という提案、要望も出ましたが、「とても有効で年々レベルアップしている」「丁寧に読んでいるので配布は必要」ということで76%の会員が必要としているという結果でした。

カウンスルNo.2

編集者　深澤佳代子

初めての編集の仕事。何からどうやっていけばよいのか、不安で一杯でしたが無事第3号まで発行できました今、やり終えた安堵の気持ちと達成感をひしひしと感じております。全く何もない「無」の状態から「会報」という形あるものに作り上げられて行く過程、形として出来上がったものを見た時の喜びは大きいものです。今期編集としてのお役を振り返ってみました。

今期発行回数
- 3回　9/1　2/1　6/25（カウンスル第3回会合時）

今期編集方針
- 興味をそそる内容、楽しい内容　No.2のテーマ「響きあう　言葉磨きを！」に沿った内容の記事の掲載

必ず掲載するもの
- 「シリーズ　磨きましょう」と題して毎回「磨く内容」を掲載。新入会員の紹介を「新しい星」として取り上げ、入会の動機を聞きました。

編集をして楽しかったこと
- ITCの方々とのお知り合いが増えたこと。パソコンの技術が少しアップしたこと。

1年を振りかえって

苦労したこと・反省点

・前期・後期のクラブのプログラムを掲載する号では発行を何時にするかで悩みました。記事依頼の時期、特に写真を掲載するか否かによっては依頼時期の十分な検討が必要であると思いました。

ウェブサイトがよいか？誌面がよいか？

・ウェブの方がコストもダウンし、ニューズレターも会員全員を対象に見てもらえると思いますが、やはり誌面で渡されて見る方が必要な情報を身近に感じられると思います。

ニューズレターのあり方・希望

・ニューズレターの発行はカウンスルの1つのまとまりの表現であるように思います。また、他クラブ・他カウンスルの動きや考え方を身近に感じることができます。費用の面だけを考えるのならページ数や発行回数を減らしたりしても発行は必要ではないでしょうか。

編集にあたりまして皆様から頂いたご協力に厚く感謝申し上げます。有難うございました。

カウンスルNo.3

編集者　**松山喜代子**

1年前、カウンスル運営研修会に参加し、今期はどのようなニュースレターを発行しようかと思い巡らしておりましたが、いよいよ終盤を迎えました。

カウンスルNo.3の会報としての役割を、記録、情報交換の場、ニュース性のあるものと考え、今期は3回発行いたしました。必ず掲載するものとして「ITC大好き」これは会員歴の長い方、比較的短い方、そして男性会員に登場いただき、情報、増員、広報的観点より掲載、また「ホットNEWS」は新しい情報、気にかけていただきたい情報を掲載いたしました。他に各クラブ紹介、お奨めプログラム、カウンスル及びクラブ会員委員会情報、年間ゲスト状況、リージョン大会速報など満載となりました。

ITCにおいてウェブサイトがよいのか、誌面のほうが良いのか、また会員が減っている現状、それに伴う経済的な問題などがあるようですが、ウェブサイトのほうがよい、あるいは誌面のほうが良いとは一概に言えないと思います。ウェブサイトは、ITC会員がいつでも、どのレベルの情報も得ることができ、また外部の方が自由に閲覧でき広報的にもとてもメリットがあります。しかし半面、パソコンをされないあるいは見ることができない会員が多くいらっしゃるという現状、また「パソコンができないとITCにおいて活動することが難しい」と感じておられる方があるという現状を聞いております。活動の簡素化はとても大事なこととは思いますが、誌面としてのニュースレター、そして昨今の流れとしてのウェブサイトはどちらも必要であり、元来扱いも別ではないかと思います。

編集をして楽しかったことはバズセッションをしながら、新しい企画、立案、校正をし、一つのものを創りあげることでした。多くの会員の皆様、そして印刷会社の皆様のご協力により制作できるものだと感謝の念で一杯でございます。

カウンスルNo.4

編集者　**服部　英子**

発行回数

・会合回数に合わせて3回発行致しました。

必ず掲載するもの

・会長コメント　カウンスル会合日とプログラム　各クラブ前期、後期プログラム　カウンスル役員、委員会名簿　決算書・予算案　会員異動

今期の編集方針

・何時も身近において活用してもらえる冊子であること。コミュニケーションがとれて、読みやすく、興味深く、役立つ内容であること。

反省点

・編集側からの一方的な記事内容での原稿依頼に終始したのではないかと反省しています。会員からの記事の希望も視野に入れた内容把握も必要ではないか。

今後のあり方

・伝達のみの内容より今、会員が必要としている内容の掲載に多くのページを割く。費用の面で負担が大きいけれどカラー冊子の方が読みやすい。

編集をして（楽しかったこと、苦労したこと、喜ばれた記事）

・今回パソコン活用術とチョツト気になるアンケートを3回シリーズで企画しました。避けて通ないパソコン活用術は少し皆様のお役に立てたかな？と不安では有りますが喜ばれた記事に入れたいと思っています。

ウェブサイトがよいか誌面のほうがよいか

・ウェブサイトは費用の面では魅力がありますが、製作側も読む側もいま少し時期が早いように思われます。まだまだパソコンに恐怖を感じている会員も多いのではないでしょうか。

ニューズレターは必要か

・カウンスルが有る限り必要だと思います。カウンスルを支えるもう1つの手段だと感じています。編集の仕事は企画　依頼　回収　校正　と大変な勉強の機会を得られる所だと思っています。

カウンスルNo.5

編集者　**田中　征子**

発行回数

・年3回、カウンスル例会日に合わせて発行しました。

必ず掲載するもの

・会長巻頭挨拶文（表紙）・会員異動・例会プログラム（裏表紙）・例会出席者表など。

今期の編集方針

・カウンスルの大切なお知らせプラス、会員の隠れた楽しい部分と各クラブの情報を掲載しました。

反省点

・余裕を充分にもって（20日前）原稿依頼はしていても、遅くなるのでかなり早めに（1ヶ月）依頼したほうが良いかなと思いました。

編集をして（楽しかったこと、苦労したこと、喜ばれた記事）

・原稿集めは楽しいというより、どんな原稿がくるかわくわくしていますが、レイアウトが出来た時が嬉しいです。
・毎回楽しい記事を載せましたので、「楽しく読ませていただいています」と、言うお声を聞く度に苦労（さほど思っていませんが）も吹っ飛びます。

ウェブサイトがよいか誌面のほうがよいか

・私は誌面のほうが、断然良いと思います。何時でも読めるし、ウェブサイトは全員がパソコンを扱っていないので、誰かにプリントアウトしてもらわないと読めません。
・印刷代は1部250円位で出来ますので、毎年予算を組んでもらいたいと思います。
・別の考え方ですが、予算が少ないカウンスルではウェブサイトでも構わない会員はそれもいいし、冊子でほしい会員は代金を支払っても良いかなと思いますが、反対が出るかも知れませんね。

ニューズレターは必要か
・ニューズレターは各クラブの情報も分かって、役に立つことも多いし必要だと思います。

カウンスルNo.7

編集者　中本みゆき

発行回数はゴールデンリング（カウンスルNo.7のニュースレターの名称）1回、号外3回。今期方針は会長の意向に沿って会員に分かりやすいものを作るということで、1回のみの編集になったが、例会が5回となり、その都度、号外を出すように要請があり、それに従った。

興味をそそる会報誌はどのようなものかと模索が続いた。キャッチフレイズにこだわったつもりである。会の様子、変化したところなど欠席者にも分かるような内容でありたいと思いながら、なかなかうまくいかないものである。

しかし、今のところ評判はそう悪くないといったところか、好意的にうけとめてもらっている。IT時代にいやおうなしに突入している時代であるが、編集はその道に精通していないと時間がかかりすぎると思う。常に前向きに関わらなければならないことはいまさら言うまでもないが、機械に弱い会員もおられるわけだから弱者をないがしろにしてはならないと思う。会員全体にスムーズに情報が伝わるにはファックス、手書きでも可能な形を取り入れなければ会員増につながらないのではないか。好奇心の旺盛な常に前向きな人生をめざすためにも、よくよく考えながら編集を遂行してゆきたい。大変学びになったが、難しい仕事だと思った。

カウンスルNo.8

編集者　寺西キヌ子

カウンスルNo.8のニュースレターは、ウェブサイトのホームページにて年に2回発行しています。カウンスルの活動や会合の様子、そして各クラブの特色あるプログラム内容などを中心に、会員の皆様にお届けしています。

一人でも多くの会員の皆様の、カウンスルとクラブの架け橋になることができたらと思い編集していますが、どのように受けとめていただけたか気になるところです。

ウェブサイトと紙面による発行を比較しますと、ウェブサイトは経費をかなり抑えることができます。また、ページ数を気にすることなく、カラーで写真・イラストなど自由に編集できます。編集者としては、遊び心も入れて楽しくパソコンに向っていました。

しかし、編集にはある程度のパソコン知識が必要になります。私もWordレベルの知識でできると簡単に考えてお引き受けしましたが、ホームページビルダーは強敵でした。慣れるまで何度かパソコン教室に通いました。編集者の担い手ということでは、ある程度範囲が狭くなってしまうことも考えられます。またウェブサイト・紙面共に編集者皆さんの最大の悩みは、どのような記事を載せるかにあると思います。記事の内容さえ決まれば、原稿依頼に皆様協力していただけました。この点はとても感謝しております。

今期、カウンスル役員会はウェブサイト・ニュースレターに関するアンケートを実施しました。多くの賛否両論の意見が寄せられました。会員及び会費の減少、IT化に伴う問題などこれからのITCを見据えてニュースレターの存続そのものにも言及しましたが、来期もニュースレターは発行されることになりました。どうぞ一人でも多くの会員の方に目を通していただきたいと願っています。

ITC 日本リージョン 第25期事務局補正予算書

（2006年 8 月 1 日～2007年 7 月31日）

収入の部

（単位：円）

科　目	補正予算額	備　考
事務局運営費	3,500,000	
使 用 料(事務所・コピー機)	6,000	
資料売上	2,500,000	マスターマニュアル代を含む
雑 収 入	1,000	利息他
合　計	6,007,000	

支出の部

科　目	補正予算額	備　考
事務局経費		
事務所家賃	1,500,000	共益費含む
人 件 費	1,100,000	
光 熱 費	100,000	
コンピュータ管理費	100,000	
プロバイダー費	33,000	
レンタルサーバー費	18,900	追加項目　ホームページ刷新のため 2007年3月～8月分
電 話 料	70,000	
設備・備品費	80,000	事務用品を含む
活 動 費		
事務局長	10,000	
コンピュータ部	8,000	
出 版 部	8,000	
資 料 部	8,000	
翻 訳 部	8,000	
経 理 部	8,000	
監 修 者	8,000	追加項目　第24期より設置の部署に活動費を計上する
翻 訳 費	250,000	
交 通 費	150,000	
資料印刷・仕入れ代	2,250,000	
資料運搬費	120,000	カウンスル資料委員との往復運搬費他
通信費・送料	60,000	振込手数料を含む
雑　費	30,000	
予 備 費	87,100	
支出合計	6,007,000	
剰 余 金	0	
合　計	6,007,000	

1. 追加項目「レンタルサーバー費」　今期ホームページを刷新した為。月額 3,150 円（消費税込）今期は3月～8月の6ヶ月分。
2. 追加項目「監修者」　第24期より設置されている3名の監修者の活動費を今期から計上した為。

2007年4月20日　　第25期　予算・財務委員会　　中野知子、八田周子

儀典に親しむ

カウンスル No.5 第二副会長　**柴田　裕美**

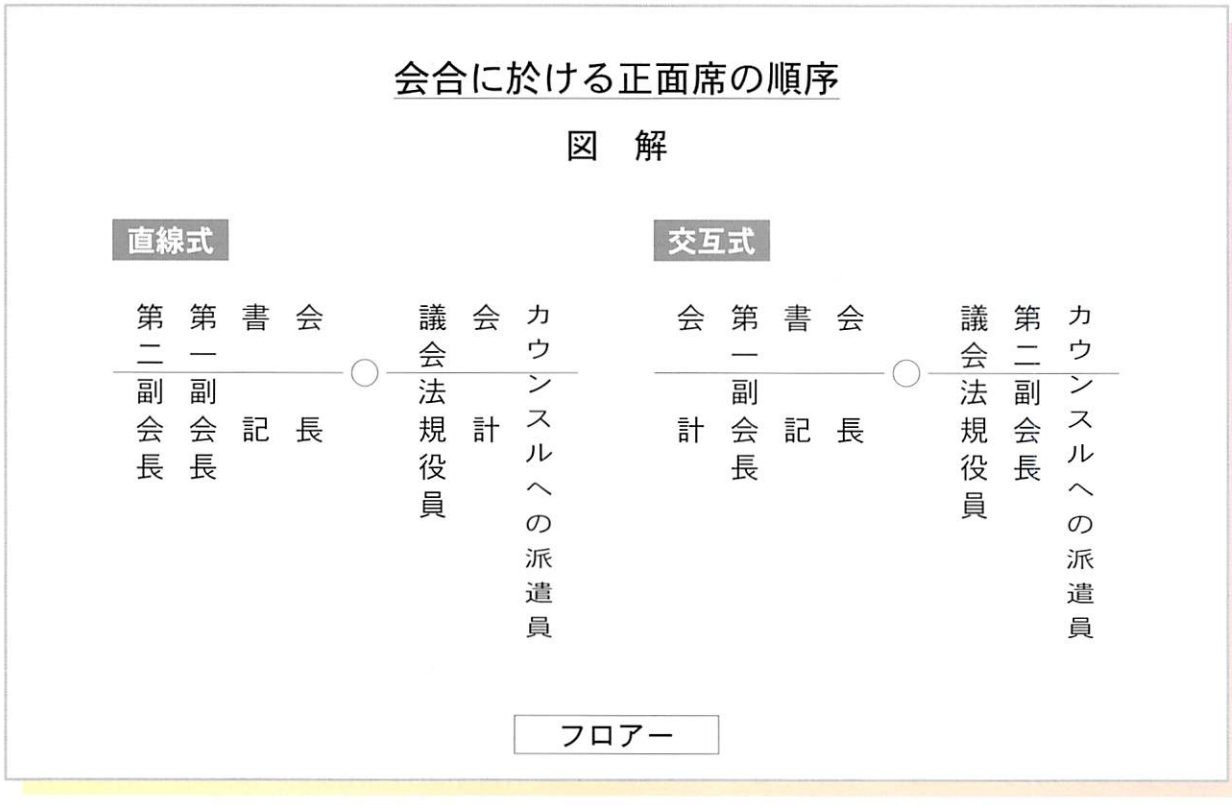
会合に於ける正面席の順序

カウンスル No.5 では儀典について学びたく、講師に名古屋クラブ・盛田純子さんをお招きして、全会員を対象にしたオリエンテーションを開催しました。

「正しい席順は？」と題して、ワークショップ形式で、カウンスル例会、クラブ特別例会でのゲストの席順について勉強し、いかなる場合も枠に当てはめるのではなく、常にお客様に対して「思いやりの心」「おもてなしの心」を持つ事の、大切さも学びました。

また「儀典に親しむ」と題して講演の中で、「会合に於ける正面席の順序」は、フロアーに向かって会長を中心として、直線式と交互式が有り、ビジネス会議に於いては、どのような場合にも、議長（会長）の右側に書記、左側に議会法規役員が座る。その隣は直線式の場合、地位の高い者、例会では第一副会長、第二副会長が右側に、左側に会計、カウンスルへの派遣員が座る。交互式では、右側に第一副会長、左側に第二副会長、右側に会計、左側にカウンスルへの派遣員が交互に座ると学びました。

活発な質問、意見交換が出来、とても有意義な時間を過しました。学んだ事は今後のクラブ運営に生かしていきたいと思っています。



編集後記

“１年を振りかえって”

作る側に立って始めて分かる事、そして楽しさ山盛りの１年でした。
「会員をつなぐ唯一のもの」心に残りました。　海老原あかね

どのような役職も、外から批判的な目で見ている時とその役になった時は当然見方が違うもの。しかし編集に関してはできるだけ読者＜会員＞の目＜立場＞で考えるようにしました。良き指導者に恵まれ「人生の得」をした１年でした。　清水　仁美

寄せていただいた原稿を前に、４人が主張し受容しあった１年。編集の面白さを味わい、次回召集を待ち遠しく感じました。役割に感謝！　播磨由美子

愉快な、楽しい仲間に恵まれて、編集の仕事をまっとうすることが出来ました。
３人の仲間に感謝の気持ちで一杯です。そして一方的な原稿依頼に快く応じてくださった日本中のITCの仲間にも感謝申しあげます。　武内　浩子

写真提供：写真委員会

ITC日本リージョン会報　Vol.25／No.4
編集・発行：第25期ＩＴＣ日本リージョン
印刷：上野タイプ印刷㈱

ITC Pledge

ＩＴＣ宣誓

We, as members of International Training in Communication, hereby pledge to improve our communication and leadership skills, in order to achieve greater understanding throughout the world.

我々インターナショナル トレーニング イン コミュニケーションのメンバーは、世界中の相互理解促進のために、コミュニケーション技術と指導力の向上に努めることをここに誓います。

2006—2007

ＩＴＣ日本リージョン声明文

Mission Statement of Japan Region

ＩＴＣ日本リージョンの使命は、ＩＴＣの目的とするコミュニケーション技術、組織運営の技術を習得する機会を会員に提供してリーダーシップをそなえた社会人を養成し社会に貢献することにある。

The mission of ITC Japan Region is to present the members opportunities for quality training in communication and leadership skills which are the purposes of International Training in Communication and benefit the society by providing mature individuals.